

佐堂遺跡第1次発掘調査報告

2007. 3

東大阪市教育委員会

佐堂遺跡第1次発掘調査報告

2007. 3

東大阪市教育委員会

例　　言

1. 本書は寝屋川流域下水道増補幹線新設事業に伴う佐堂遺跡第1次発掘調査の報告書である。
2. 調査地は、大阪府東大阪市金岡4丁目・大蓮東4丁目である。
3. 調査は大阪府東部流域下水道事務所の依頼を受けて、東大阪市教育委員会文化財課が実施した。
4. 調査にかかる費用は全額大阪府東部流域下水道事務所が負担・用意した。
5. 発掘調査はNo.1調査区を平成17年10月13日～11月7日まで、No.2・3調査区を平成18年4月20日～5月19日まで行った。遺物整理及び報告書作成作業は平成19年3月31日まで実施した。
6. 現場調査はNo.1調査区を才原金弘・市田英介、No.2・3調査区を才原・庵ノ前智博が担当し、遺物整理は市田・庵ノ前が行った。
7. 基準杭・調査杭設置はオオサカクリーンサービス株式会社、遺物写真撮影は株式会社ユニカに委託して実施した。
8. 本書はI～III-1・3・4を庵ノ前、III-2を市田、IVを市田・庵ノ前が執筆し、庵ノ前が編集した。
9. 土層断面図の土色は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』に準拠し、記号表記もこれに従った。
10. 調査の実施にあたっては、大阪府東部流域下水道事務所のご協力のもと、施工業者ならびに近隣市民の方々のご協力を賜った他、現場作業および整理作業には内田(遠藤)友希、梶本佳代、金村誠、酒井祐介、瀧川亮、鳴川夢生、西出一樹、水島暁、山尾史勇人、米田一平が従事した。これらの方々に記して感謝いたします。

目 次

I 調査に至る経過.....	1
II 位置と環境.....	2
1. 地理的環境.....	2
2. 歴史的環境.....	3
III 調査の概要.....	5
1. 調査区の位置と調査方法.....	5
2. №1 調査区の概要.....	5
1) 調査区の規模と基本層序	5
2) 遺構	10
3) 出土遺物	10
3. №2 調査区の概要.....	11
1) 調査区の規模と基本層序	11
2) 遺構	12
3) 出土遺物	15
4. №3 調査区の概要.....	16
1) 調査区の規模と基本層序	16
2) 遺構	17
3) 出土遺物	17
IV おわりに.....	20

挿 図 目 次

第1図 調査地位置図.....	1
第2図 調査地周辺地形図.....	2
第3図 河内湖 I の時代(約1800~1600年前)の古地理図.....	3
第4図 周辺遺跡分布図.....	4
第5図 調査地周辺図.....	5
第6図 №1 調査区位置図.....	6
第7図 №1 調査区西・南壁土層断面図.....	7・8
第8図 №1 調査区第3・5・15層上面遺構面平面図.....	9
第9図 №1 調査区第3層上面遺構面落ち込み遺物出土状況図.....	10
第10図 №1 調査区出土遺物実測図.....	11
第11図 №2 調査区位置図.....	11
第12図 №2 調査区西・北壁土層断面図.....	13
第13図 №2 調査区第6・8層上面遺構面平面図.....	14
第14図 №2 調査区出土遺物実測図.....	16
第15図 №3 調査区位置図.....	16
第16図 №3 調査区北・西壁土層断面図.....	18
第17図 №3 調査区第2・3層上面遺構面平面図.....	19

図版目次

- 図版1 遠景 1. 調査地遠景(No.2・3調査区・東から)
2. 同拡大
- 図版2 遺構 1. No.1調査区西壁土層断面(北半・第1層～第4層)
2. No.1調査区西壁土層断面(南半・第1層～第4層)
- 図版3 遺構 1. No.1調査区南壁上層断面(西半・第2層～第4層)
2. No.1調査区南壁土層断面(東半・第2層～第4層)
- 図版4 遺構 1. No.1調査区南壁土層断面(西半・第4層～第8層、自然河川上層部)
2. No.1調査区南壁土層断面(東半・第4層～第8層、自然河川上層部)
- 図版5 遺構 1. No.1調査区南壁土層断面(第6層～第18層、自然河川下層部)
2. No.1調査区南西コーナー土層断面(自然河川下層部)
- 図版6 遺構 1. No.1調査区第3層上面遺構面検出状況(南東から)
2. No.1調査区第3層上面遺構面検出状況(北から)
- 図版7 遺構 1. No.1調査区第3層上面遺構ピット1断面(北から)
2. No.1調査区第3層上面遺構ピット2断面(東から)
- 図版8 遺構 1. No.1調査区第3層上面遺構落ち込み内遺物出土状況(東から)
2. No.1調査区第3c層上面遺構面検出状況(南から)
- 図版9 遺構 1. No.1調査区第5層上面遺構面検出状況(北から)
2. No.1調査区第15層上面自然流路検出状況(北から)
- 図版10 遺構 1. No.2調査区西壁土層断面(北半・第0層～第6a層上面)
2. No.2調査区西壁土層断面(南半・第0層～第6a層上面)
- 図版11 遺構 1. No.2調査区西壁土層断面(北半・第6e層～第9b層)
2. No.2調査区西壁土層断面(南半・第6e層～第9b層)
- 図版12 遺構 1. No.2調査区北壁土層断面(第1a層～第6a層上面)
2. No.2調査区北壁土層断面(第6d層～第9b層)
- 図版13 遺構 1. No.2調査区第6層上面遺構流路1検出状況(北東から)
2. No.2調査区第6層上面遺構流路1検出状況(南西から)
- 図版14 遺構 1. No.2調査区第6層上面遺構足跡群検出状況(北東から)
2. 同拡大
- 図版15 遺構 1. No.3調査区北壁土層断面(東半・第1a層～第3a層)
2. No.3調査区北壁土層断面(西半・第1a層～第3a層)
- 図版16 遺構 1. No.3調査区北壁土層断面(東半・第3a層～第5b層)
2. No.3調査区北壁土層断面(西半・第3a層～第5b層)

- 図版17 遺構 1. No.3 調査区北壁土層断面(東半・第5 b層～第6 1層上面)
2. No.3 調査区北壁土層断面(西半・第5 b層～第6 1層上面)
- 図版18 遺構 1. No.3 調査区西壁土層断面(第0層～第3 a層)
2. No.3 調査区西壁土層断面(第3 a層～第5 b層)
- 図版19 遺構 1. No.3 調査区西壁土層断面(第5 b層～第6 1層上面)
2. No.3 調査区西壁土層断面(第6 1層)
- 図版20 遺構 1. No.3 調査区第3層上面遺構足跡群検出状況(東から)
2. No.3 調査区第6 1層上面検出状況(東から)
- 図版21 遺物 1. No.1 調査区出土遺物
- 図版22 遺物 1. No.2 調査区出土遺物

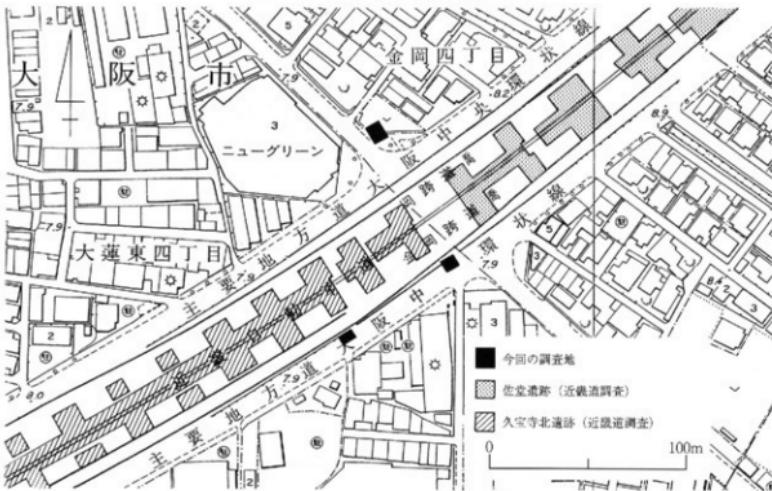
I 調査に至る経過(第1図)

佐堂遺跡は、河内平野の中央部、東大阪市西南部から八尾市西部にかけて広がっている縄文時代後期から近世に至る複合遺跡である。

河内平野における遺跡群は、昭和9(1934)年の東大阪市瓜生堂遺跡・若江北遺跡の発見を発端とし、これまでに多くの遺跡が調査されている。特に大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター(現、大阪府文化財センター)が昭和51~61(1976~1986)年度に実施した近畿自動車道天理~吹田線建設(以下、近畿道)に伴う発掘調査は、河内平野遺跡群の全容をつかむ契機となった。佐堂遺跡は昭和56~59(1981~1984)年度に調査されている。この調査では、旧長瀬川の流路や自然堤防・築堤、古墳時代の堅穴住居群などが検出された。また長瀬川右岸一帯の自然堤防上では中世期(平安時代末~鎌倉時代)の掘立柱建物群が検出され、同一帯に集落が展開していたことが想定された(註1)。

近畿道に伴う発掘調査以降、八尾市教育委員会や(財)八尾市文化財調査研究会が立会・試掘・発掘調査を実施している(註2)。中でも平成7(1995)年度に八尾市文化財調査研究会が遺跡の東端部で実施した調査は、平安時代末から中世・近世にかけての土坑・井戸などの遺構とそれに伴う遺物が出土し、近畿道に伴う調査に準ずる成果が得られている(註3)。なお、東大阪市教育委員会が実施した佐堂遺跡の調査はこれまでに一度もなく、今回が初めての調査となった。

今回の調査の契機は、大阪府東部流域下水道事務所が寝屋川流域下水道増補幹線新設事業に伴い、金岡4丁目に到達立坑を、大蓮東4丁目にNo.3・4分水立坑の建設を計画したことによる。立坑はいずれも遺跡内に位置するため、委託を受けた当市教育委員会は到達立坑をNo.1調査区、No.4分水立坑をNo.2調査区、No.3分水立坑をNo.3調査区として発掘調査を実施した。調査期間は、No.1調査区は平成17年10月13日~11月7日まで、No.2・3調査区は平成18年3月9日に試掘調査、同年4月20日~5月19日まで発掘調査をし、以後平成19年3月まで整理作業を行った。



第1図 調査地位置図

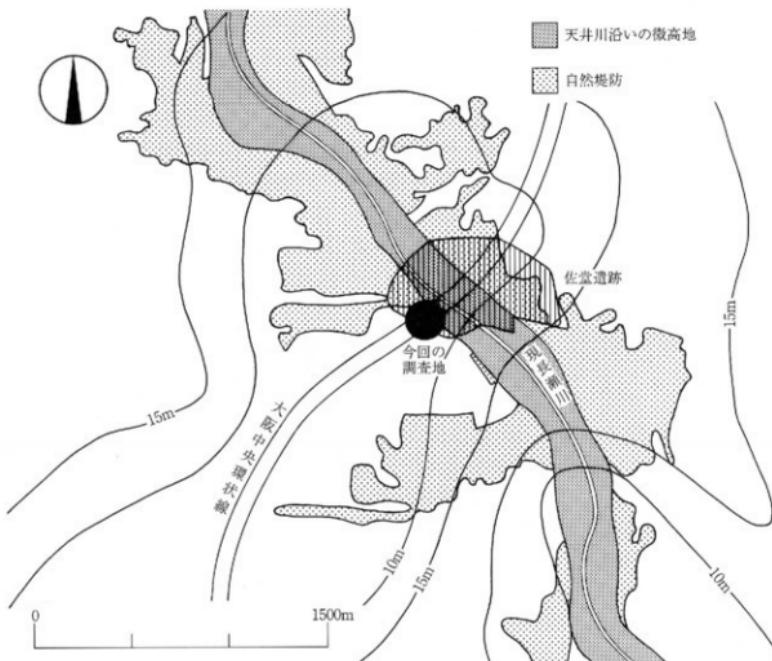
II 位置と環境

1. 地理的環境(第2図)

佐堂遺跡は、東に生駒山地、西に上町台地、南に羽曳野丘陵で囲まれた河内平野の中央部に位置しており、八尾市末広町を中心として東西約0.5km・南北約0.5kmの範囲に広がっている遺跡である。

河内平野は、縄文海進が盛んであった縄文時代早期から中期にかけては河内湾の海底に沈んでいたが、後期から晩期にかけて海退が進み、弥生時代前期から中期には旧大和川の本流である平野川・長瀬川・玉串川の沖積作用により扇状地状低湿地が形成され、現在に至っている。

当遺跡は、遺跡西部を長瀬川が縱断しているが、それによる沖積作用によって形成された天井川沿いの微高地ないし自然堤防上に立地している。現在でも周辺の地形は旧長瀬川が造成した地形をよく保っており、今回の調査地に接している府道173号線は中世堤上、これより北、近鉄大阪線までの間は中世流路跡、近鉄大阪線は飛鳥・中世堤上にある(註4)。大和川が付け替えられて以降(宝永元(1704)年)、長瀬川は井路(現長瀬川)として機能を変えた。現在、旧長瀬川が幾度となく氾濫し、頻繁に洪水にみまわれていた様子は今となっては想像し難い光景になっている。



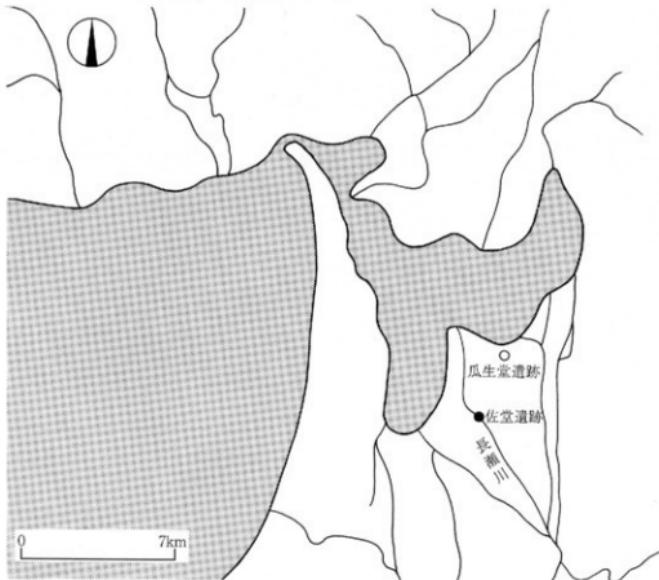
第2図 調査地周辺地形図

2. 歴史的環境(第3・4図)

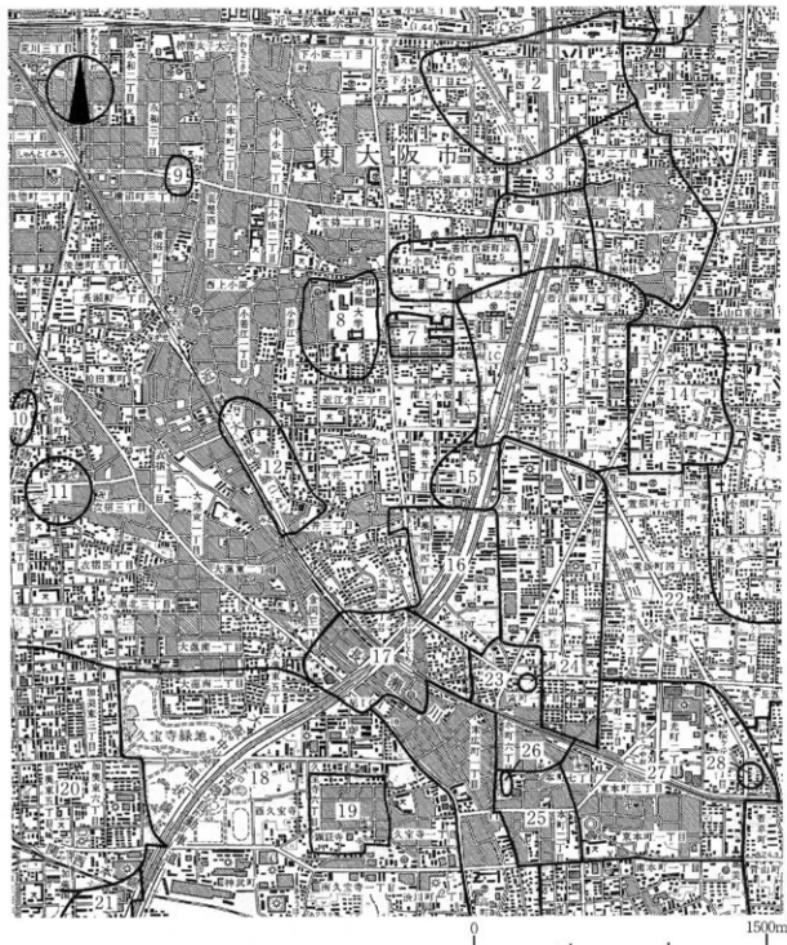
縄文時代後期から弥生時代にかけて河内平野が形成され始めると、そこで生活を求める人々が急増した。佐堂遺跡の位置する場所も、この時期から河川の沖積作用によって地形が形成され始める。周辺の遺跡を見ると、当遺跡の北には瓜生堂遺跡・若江遺跡・山賀遺跡・友井東遺跡・美園遺跡、西には加美遺跡、南には久宝寺遺跡・亀井遺跡・城山遺跡、東には宮町遺跡などが位置しており、特に弥生時代から古墳時代にかけての遺跡の分布が濃密であることがわかる。

弥生時代になって形成された河内平野遺跡群の集落は、弥生時代後期に河川による氾濫が頻繁に発生したがために小規模化傾向が見られる。しかし、自然現象が安定してくる古墳時代以降には再び集落が拡張される。佐堂遺跡では、古墳時代になってようやく堅穴住居跡や掘立柱建物・倉庫など居住域を示す遺構の検出が見られる。しかし旧長瀬川の本流の変遷などの影響により、当集落域の中心が移動し、湿地性を示す当遺跡は飛鳥時代(7世紀)には水田域と化していった。古代になると、河内国若江郡の条里制に基づいて開墾され、その様子は現在の地形図からも窺える。

平安時代末ごろから鎌倉時代にかけて、当遺跡の長瀬川右岸の自然堤防上では再度集落域として展開しはじめる。中世になると、当遺跡の南にある久宝寺村が発展し、文明2(1470)年に久宝寺で布教活動をはじめた蓮如が、明応年間(1492~1501)に西証寺を建立している。西証寺は後に顯証寺と寺号を改め、天文10(1541)年頃には久宝寺寺内町が形成された。以降、この地域は門徒衆が集まる布教の拠点地となり、長瀬川を挟んだ対岸には八尾市も見られ、商業活動も活発となり町は賑わったようである。この様子は『河内名所図会』にも描かれている。



第3図 河内湖Iの時代(約1800～1600年前)の古地理図
(『大阪府史』第1巻89頁図33をもとに再トレス(一部加筆・削除))



- | | | | |
|----------|-----------|-----------|---------|
| 1 岩田遺跡 | 2 瓜生堂遺跡 | 3 巨摩廃寺遺跡 | 4 若江遺跡 |
| 5 若江北遺跡 | 6 上小阪遺跡 | 7 新上小阪遺跡 | 8 小若江遺跡 |
| 9 橫沼遺跡 | 10 弓削ノ庄遺跡 | 11 衣摺遺跡 | 12 弥刀遺跡 |
| 13 山賀遺跡 | 14 西郡廃寺遺跡 | 15 友井東遺跡 | 16 美園遺跡 |
| 17 佐堂遺跡 | 18 久宝寺遺跡 | 19 久宝寺寺内町 | 20 加美遺跡 |
| 21 亀井北遺跡 | 22 莢振遺跡 | 23 宮町遺跡 | 24 穴太廃寺 |
| 25 八尾寺内町 | 26 河内県庁跡 | 27 東郷遺跡 | 28 東郷廃寺 |
| 29 成法寺遺跡 | | | |

第4図 周辺遺跡分布図

III 調査の概要

1. 調査区の位置と調査方法(第5図)

今回の調査区は、佐堂遺跡の南端部、大阪中央環状線と府道173号大阪八尾線が交差する「藤美」交差点付近に所在する。No.1調査区は「藤美」交差点の北東角で、近畿道に伴う佐堂遺跡の調査のF3地区の西北西約40mに位置する。No.2・3調査区は「藤美東」交差点の西、大阪中央環状線の中央分離帯の南端にあり、交差点に接してNo.2調査区が、それより南西約60mにNo.3調査区が位置している。No.2調査区は久宝寺北遺跡H2地区の南東約15m、No.3調査区はA2地区の南約10mにある。

当初の計画ではNo.1・3調査区は昼間工事、No.2調査区は夜間工事であったため、前者は発掘調査を、後者は掘削した残土より遺物採集することになっていた。しかし、工事の途中でNo.2調査区も昼間工事に変更となつたため、3ヶ所とも発掘調査を実施する運びとなった。工事の都合上、No.1調査区は平成17年度に、No.2・3調査区は平成18年度に調査を実施した。

発掘調査は盛土層を重機で掘削したのち、側溝で層位を確認しながら1層ずつ人力掘削をし、遺構・遺物の確認に務めた。調査の能率

を図るために、自然流路に堆積した砂層などの掘り起こしには重機を使用した。

調査区の測量・基準点に関しては、No.1・3調査区はトラバース測量により設置したが、No.2調査区は当初夜間工事の予定であったため実施していなかった。そのため平成18年度調査中に、No.3調査区周辺に設置した基準点より平板測量を行い、国土座標を算出した。

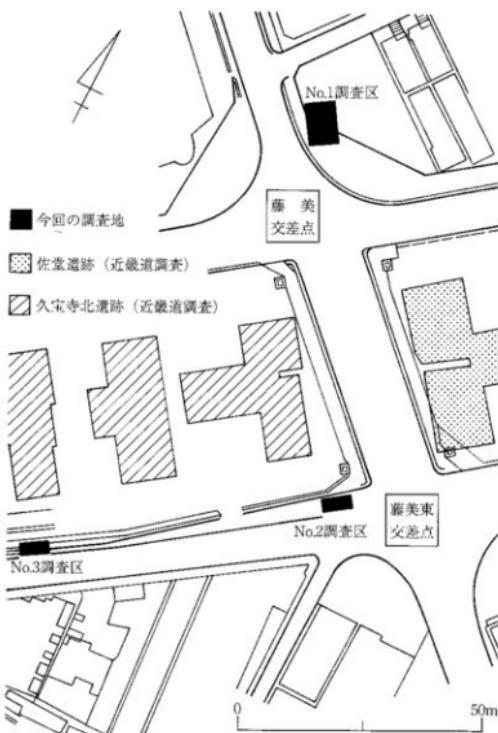
2. No.1調査区の概要

1) 調査区の規模と基本層序(第6・7図)

調査区の規模は長辺8.5m、短辺6.0mで、調査面積は51.0m²である(第6図)。調査区周辺の現地表面は標高約7.3mを測る。

まず盛土層(第0・1層)を重機で掘削した。各層の詳細は以下に記す。第5層以下は地山層である。第0層 近現代盛土層。現地表面レベルはT.P.+7.3mを測り、層厚は約1.2mである。

第1層 明黄褐色(10YR6/6)礫混



第5図 調査地周辺図

じり粗粒砂層。旧長瀬川による堆積層。上面のレベルはT.P.+6.1mを測り、層厚は約0.9mである。

第2層 オリーブ黒色(10Y2/1)シルト質粘土層。上面は遺構面となり、足跡群を検出した。上面のレベルはT.P.+5.2mを測り、層厚は約0.2mである。層中より土師器・須恵器の細片が出土した。

第3層 暗オリーブ灰色粘質シルト層。上面は遺構面となる。第3層は3層に細別できる。上面のレベルは調査区南端でT.P.+5.1mを測り、層厚は約0.4mである。層中より布留式土器が出土した。古墳時代前期の遺物包含層。

第4層 灰色(10Y4/1)粘土層。シルト層が帶状に混入している。上面のレベルはT.P.+4.7mを測り、層厚は約0.15~0.3mである。遺物は出土しなかった。

第5層 暗緑灰色(7.5GY4/1)シルト層。粘土層が帶状に混入している。上面は遺構面となり、自然河川を検出した。上面のレベルはT.P.+4.05mを測り、層厚は約0.2mである。遺物は出土しなかった。

第6層 緑灰色(7.5GY5/1)シルト層。固く縮まっている。上面のレベルはT.P.+3.85mを測り、層厚は約0.1mである。

第7層 暗オリーブ灰色(5GY4/1)粘質シルト層。シルト層が帶状に混入している。上面のレベルはT.P.+3.75mを測り、層厚は約0.2mである。

第8層 暗緑灰色(5GY4/1)シルト質粘土層。植物遺体を含む。上面のレベルはT.P.+3.55mを測り、層厚は約0.15mである。

第9層 暗緑灰色(10GY4/1)シルト層。粘土ブロックが混入している。上面のレベルはT.P.+3.4mを測り、層厚は約0.15mである。

第10層 暗オリーブ灰色(5GY4/1)シルト層。粘土層が帶状に混入している。上面のレベルはT.P.+3.25mを測り、層厚は約0.1mである。

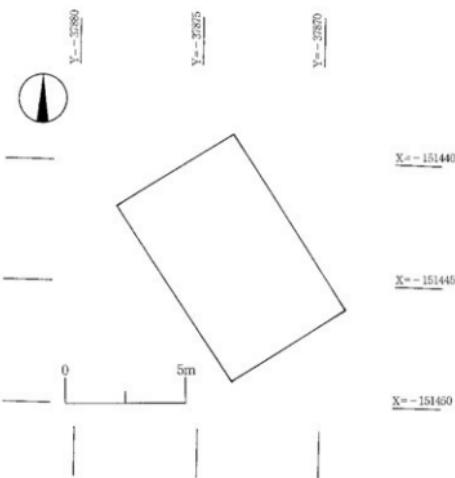
第11層 灰色(10Y4/1)粘土層。上面のレベルはT.P.+3.15mを測り、層厚は約0.05mである。

第12層 灰色(7.5Y4/1)粘土層。植物遺体を帶状に含む。上面のレベルはT.P.+3.1mを測り、層厚は約0.1mである。

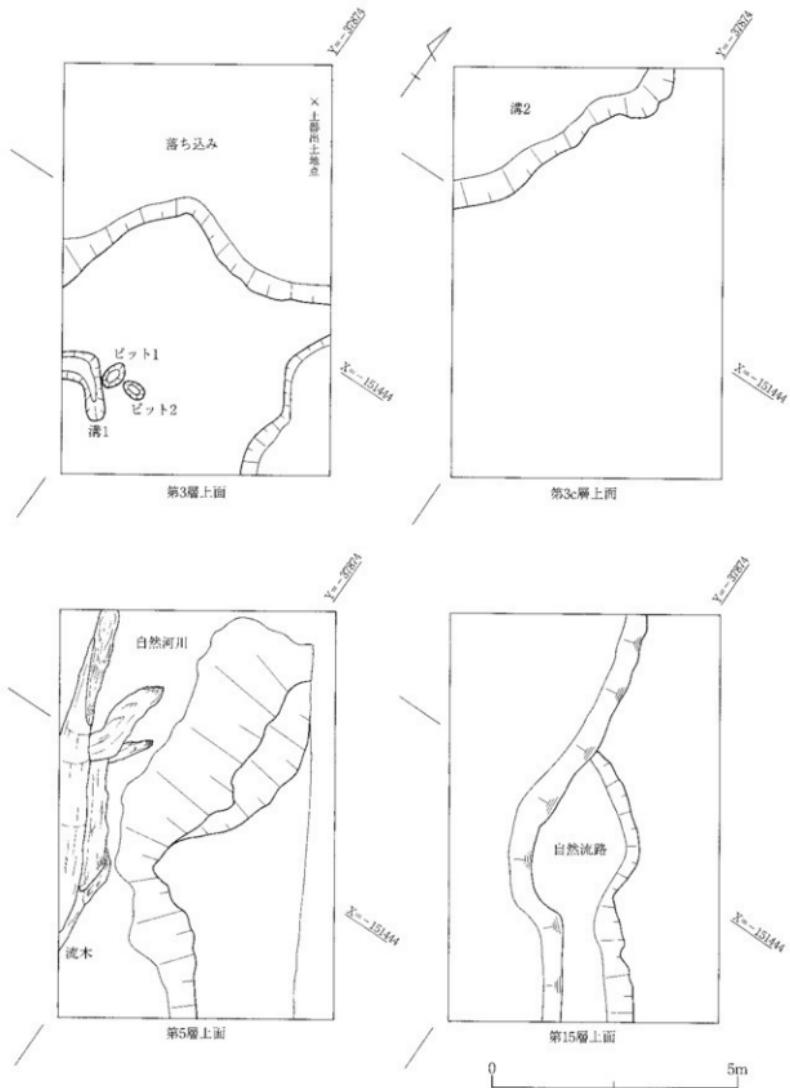
第13層 暗オリーブ灰色(5GY4/1)粘土層。上面のレベルはT.P.+3.0mを測り、層厚は約0.1mである。

第14層 灰色(7.5Y4/1)粘土層。植物遺体を含む。上面のレベルはT.P.+2.9mを測り、層厚は約0.05mである。

第15層 灰色(7.5Y4/1)シルト質粘土層。上面で自然流路を検出した。上面のレベルはT.P.+2.85m



第6図 No.1 調査区位置図



第8図 No.1 調査区第3・5・15層上面遺構面平面図

を測り、層厚は約0.15mである。

第16層 黒色(5Y2/1)粘質土層。植物遺体を多く含む。上面のレベルはT.P.+2.7mを測り、層厚は約0.1mである。

第17層 黒色(2.5GY2/1)粘土層。上面のレベルはT.P.+2.6mを測り、層厚は約0.2mである。

第18層 黒色(7.5Y2/1)粘土層。上面のレベルはT.P.+2.4mを測り、層厚は0.2m以上である。

2) 遺構 (第8・9図)

遺構面は、第2層上面、第3層上面、第5層上面の3面で確認した。時期は、第3層上面が古墳時代前期、第5層上面が古墳時代前期以前の遺構面となる。なお、第15層上面にて自然流路を検出した。第2層上面遺構

足跡群 旧長瀬川により堆積した砂層(第1層)を除去すると、第2層の粘土層上面にて足跡群を検出した。層内より摩滅した土師器・須恵器の細片が出土した。

第3層上面遺構(第8図上・第9図)

落ち込み 南肩を検出した。北方へ向かって窪む。埋土上層はオリーブ灰色(5Y5/1)粘土、下層は暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)粘土で炭、植物遺体が混入している。埋土上面で布留式土器の小形鉢が出土した(第9図・第10図1)。

ピット1・2 ピットは調査区南で2基検出した。ピット1は長軸約0.6m、短軸約0.4m、深さ0.03m、ピット2は長軸約0.5m、短軸0.3m、深さ0.02mを測り、ともに梢円形を呈する。

溝1 ピットの南で検出したくの字状を呈した溝である。西端は調査区外へ延びる。規模は南北長1.4m、東西検出長0.35m、深さ0.05mを測る。埋土はオリーブ黒色(7.5Y3/2)粗粒砂混じりシルト質粘土である。遺物は出土しなかった。

溝2 第3c層上面で検出した南北方向に延びる溝である。東肩のみ検出でき、西肩は調査区外である。断面形は浅い皿状を呈する。埋土上層はオリーブ黒色(7.5Y3/2)粘土、下層はオリーブ黒色(5Y2/2)粘質土で炭、焼土、植物遺体が混入している。埋土の堆積状況から滲水していたと考えられる。遺物は出土しなかった。

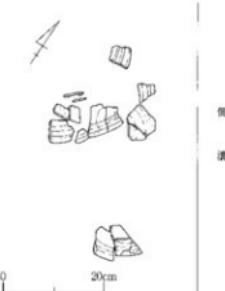
第5層上面遺構(第8図左下)

自然河川 南北方向に延びる自然河川である。東肩を検出し、西肩は調査区外である。検出幅5m、深さ3m以上を測る。埋土上層は暗緑灰色(7.5GY4/1)シルト、下層は灰色(10Y5/1)シルト～中粒砂と暗オリーブ灰色(2.5GY5/1)シルト(植物遺体が多く混入)との互層である。遺物は出土しなかった。第15層上面(第8図右下)

自然流路 北西から南東方向に延びる自然流路である。西半は自然河川によって切られている。検出長5m、検出幅2m、深さ約0.05mを測る。埋土は灰色(10Y5/1)シルト～細粒砂である。

3) 出土遺物 (第10図)

第2層・第3層より遺物が出土した。第2層中に包含されていた遺物は、土師器・須恵器である。いずれも細片で出土量は少ない。器面・端面ともにローリングを受けて丸みを帯びている。図化でき



第9図 Na 1 調査区第3層上面
遺構面落ち込み遺物出土状況図

るものはなかった。旧長瀬川による氾濫の際に土砂とともに堆積したものである。

第3層からは布留式土器が出土した。図化できたのは4点で、1の小形鉢は第3層上面(落ち込み上面)、2~4は高坏の坏部は第3層より出土した。

1の小形鉢は、口径16.2cm、器高5.0cmを測る。口縁部は屈曲しながら外反し、底部は丸い。口縁部内外面ともに横方向のヘラミガキ調整、底部外面ヘラケズリ調整、内底部放射状のヘラミガキ調整する。色調はにぶい黄橙色(10YR6/3)を呈する。

2~4の高坏部は、口縁部は小さな坏底から屈曲して長く開くタイプの高坏である。

2は復元口径16.0cm、残存高3.1cmを測る。口縁部外面横方向のヘラミガキ調整、口縁部内面ヨコナデ調整する。色調は灰黄色(2.5Y6/2)を呈する。

3は復元口径16.0cm、残存高3.5cmを測る。口縁部外面ヨコナデ調整、口縁部内面放射状のヘラミガキ調整する。色調は外面灰黄褐色(10YR6/2)、内面褐灰色(10YR4/1)を呈する。

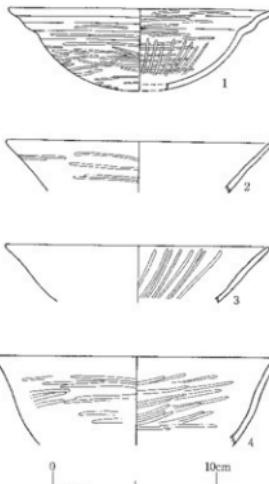
4は復元口径17.0cm、残存高5.4cmを測る。口縁部内外面ともに横方向のヘラミガキ調整する。色調は灰黄色(2.5Y7/2)を呈する。

3. №2 調査区の概要

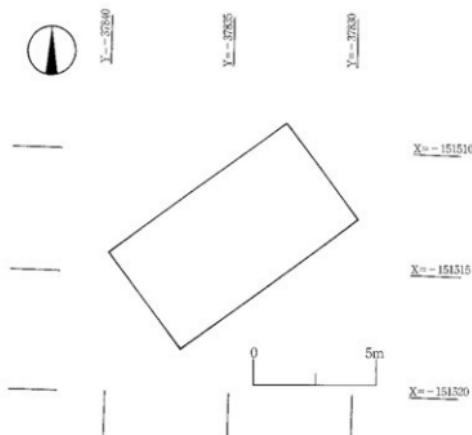
1) 調査区の規模と基本層序 (第11・12図)

調査区の規模は東西7.2m、南北3.6mで、調査面積は25.9m²である(第11図)。調査区周辺の現地表面は標高約7.9mを測る。まず、盛土層(第0層)を試掘調査時に重機で掘削した。第1層以下は調査区北・西壁にセクションを設定し、土層断面の観察・記録に務めた(第12図)。基本層序は、盛土層(第0層)、旧耕土層(第1~3層)、旧水田土層(第4~7層)、旧長瀬川の河流による堆積土層(第8・9層)、地山層(第10層)の5層に大別することができる。第0層 近現代盛土層。現地表面レベルはT.P.+7.85mを測り、層厚は約1.85mである。

第1層 暗灰黄色シルト層。旧耕土層。当層は2層に分層でき、上層の第1a層が暗灰黄色(2.5Y5/2)



第10図 №1 調査区出土遺物実測図



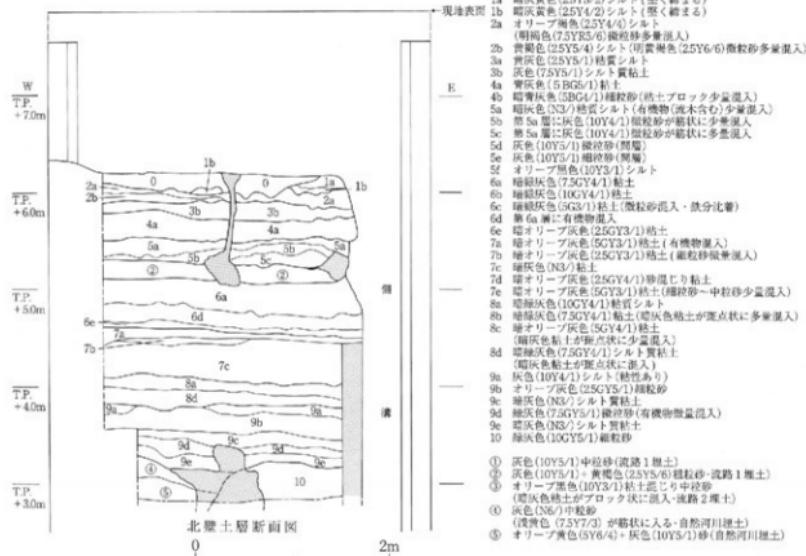
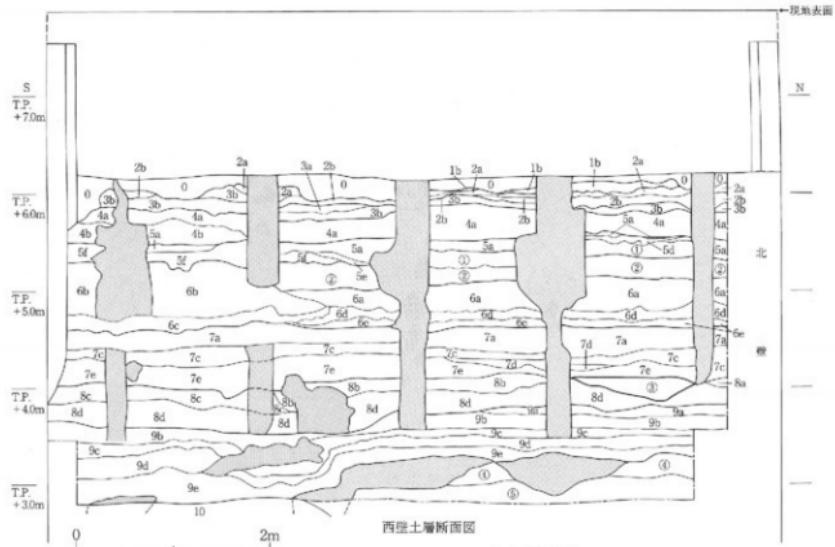
第11図 №2 調査区位置図

シルト層、下層の第1 b層が暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト層で、両層ともに全体的に堅く締まっている。当層は第0層の搅乱の影響を受け、調査区北側の一部にしか残っていなかった。現状では最も残りの良い箇所で、上面のレベルはT.P.+6.2mを測り、層厚は約0.2mである。遺物は第1 b層より土師器皿(第14図5)が1点出土したのみである。

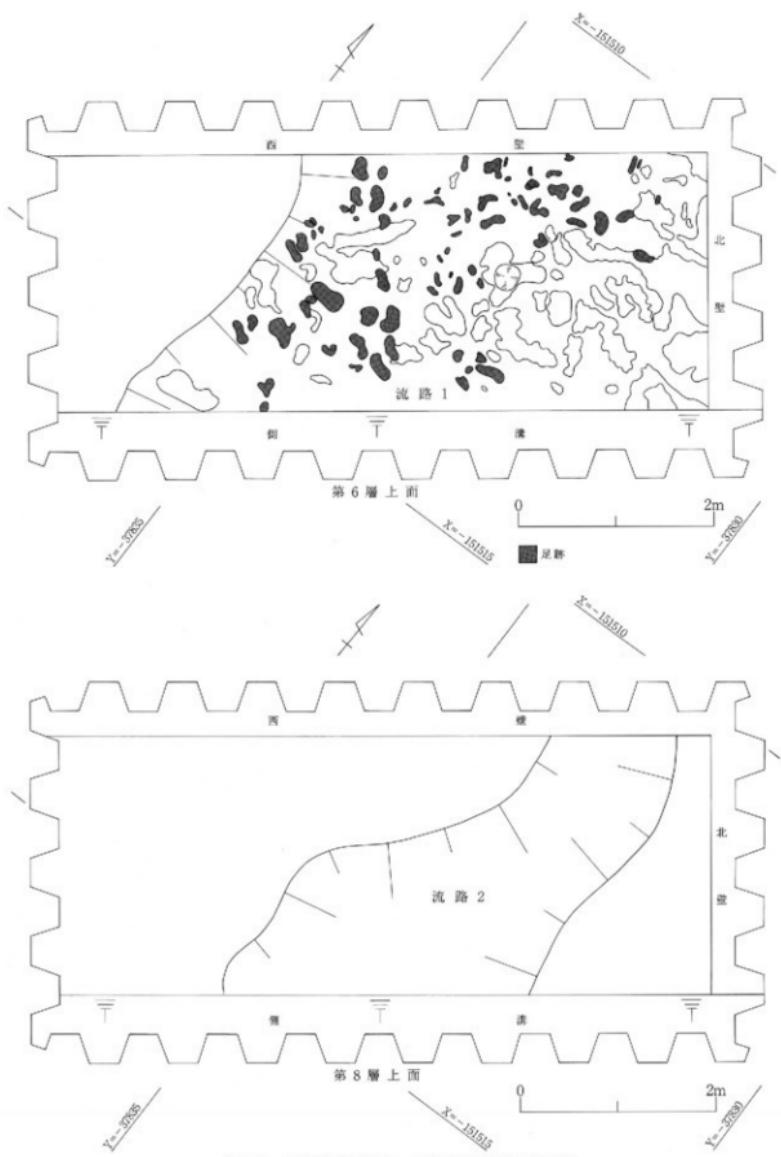
- 第2層 黄褐色シルト層。旧耕土層。当層も2層に分層でき、上層がオリーブ褐色(2.5Y4/4)シルト層(第2 a層)、下層が黄褐色(2.5Y4/4)シルト層(第2 b層)で、両層ともに明黄褐色微粒砂が多く量に混在している。第0層の搅乱の影響は当層にも及んでおり、現状での上面のレベルは調査区西側でT.P.+6.1m、東側でT.P.+6.0mを測り、層厚は約0.2mである。遺物は第2 a層より土師器細片が2点出土したにすぎない。
- 第3層 灰色(7.5Y5/1)シルト質粘土層。旧耕土層。調査区西側中央部には黄灰色(2.5Y5/1)粘質シルト層が部分的に堆積している(第3 a層)。上面のレベルはT.P.+5.9mを測り、層厚は約0.1~0.2mである。遺物は出土しなかった。
- 第4層 青灰色(5BG5/1)粘土層。旧水田土層。調査区南西端では2層に分層することができ、下層の第4 b層は暗青灰色(5BG4/1)細粒砂層で粘土ブロックを少量混入している。上面のレベルは調査区西側でT.P.+5.8m、東側でT.P.+5.7mを測り、層厚は約0.25~0.4mである。遺物は出土しなかった。
- 第5層 暗灰色(N3/)粘質シルト層。旧水田土層。調査区南西端では下層(第5 f層)はシルト質を呈する。層中に微粒砂~細粒砂のラミナが見られ、流木等の植物遺体も混在している(第5 d・5 e層)。上面のレベルは調査区北・西側でT.P.+5.5mを測るが、調査区中央部から南東部にかけて緩やかに傾斜し、南東端はT.P.+5.3mを測る。層厚は約0.1~0.3mである。遺物は出土しなかった。
- 第6層 暗緑灰色粘土層。旧水田土層。上面は遺構面となる。流路1による突發的な水流の影響を受け、調査区北側は層中に微粒砂~細粒砂や有機物が混入している。特に第6 a層は微粒砂が多く量に混入している。第6 b層には砂は全く混入していない。上面のレベルは調査区南側でT.P.+5.3m、北側でT.P.+5.0mを測り、層厚は南側で約0.7m、北側で約0.4mである。遺物は出土しなかった。
- 第7層 暗オリーブ灰色粘土層。旧水田土層。第6層よりも層全体に植物遺体が混在し、土色が黒く呈している。上面のレベルはT.P.+4.6mを測り、層厚は約0.6mである。遺物は出土しなかった。
- 第8層 暗緑灰色シルト~粘土層。上面は遺構面となる。層中に暗灰色粘土が斑点状に見られ、植物遺体が混入している。上面のレベルはT.P.+4.0mを測り、層厚は約0.3~0.4mである。遺物は出土しなかった。
- 第9層 暗灰色シルト質粘土・緑灰色微粒砂~細粒砂層。粘土層と砂層が約0.1mの厚さで交互に堆積している。上面のレベルは調査区北側でT.P.+3.8m、南側でT.P.+3.6mを測り、層厚は約0.5~0.8mである。遺物は出土しなかった。
- 第10層 緑灰色細粒砂層。地山層。上面は遺構面となる。調査区南側は自然河川の影響により、上面は削られている。上面のレベルは調査区北東でT.P.+3.2m、南西でT.P.+2.8mを測る。層厚は1.2m以上である。

2) 遺構 (第13図)

No 2調査区では、遺構面は第6層上面、第8層上面、第10層上面の3面を確認した。



第12図 No.2 調査区西・北壁土層断面図



第13図 No.2調査区第6・8層上面構造面平面図

第6層上面遺構(第13図上)

第6層上面では流路1と足跡群を検出した。遺物は流路1の埋土中より土師器片が出土している(第14図6~8)。

流路1 調査区東側で検出した南北方向の流路である。両端及び東肩は調査区外に延びるため規模は判然としないが、検出長3.5m、検出幅4.5m、深さ約0.2~0.3mを測る。断面形は浅い皿状を呈する。埋土は2層に分層でき、上層は灰色(7.5Y5/1)中粒砂(第12図第①層)、下層は灰色(7.5Y5/1)+黄褐色(2.5Y5/6)粗粒砂(同図第②層)である。埋土中より土師器片が出土しているが、その大半がローリングを受け器面・端部とともに磨滅している径1~3cmほどの細片であった。図化できた遺物は土師器皿(第14図6)、土師器塊(同図7)、土師器甕(同図8)の3点である。埋土の堆積状況や遺物の出土状態からみて、当遺構の性格は突発的な流水の痕跡であると考えられる。

足跡群 流路1の埋土を除去すると、その底面より足跡群を検出した。第6a層の上部には微粒砂のラミナが多く見られ、検出時に足跡群と混在していた。しかし、流路1の下層が混入した足跡群の埋土は、ラミナよりも砂粒が粗く、また鉄分が沈着していたこともあって、足跡とラミナの痕跡は明確に区別できた。足跡の種類としては人間を主体とし、ウシも確認できた。規模は、人間は長さ約30cm、ウシは約10cm、深さ約5~10cmを測るものが多かった。上面のレベルはT.P.+5.1mを測る。

第8層上面遺構(第13図下)

第8層上面では流路2を検出した。埋土中より弥生土器が出土している。

流路2 調査区の東側で検出した南北方向の流路である。両端は調査区外に延びる。検出長3.5m、幅北側1.3m、南側2.7m、深さ0.25mを測る。断面形は浅い皿状を呈する。埋土はオリーブ黒色(10Y3/1)粘土泥じり中粒砂で、暗灰色粘土がブロック状に混入している(第12図第③層)。埋土中より弥生時代後期の甕口縁部片(第14図9)を含む弥生土器4点が出土している。

第10層上面遺構

第10層上面の調査区北西で自然河川を確認した。

自然河川 調査区北西で検出した。南東肩しか検出できず、形状・規模ともに不明瞭である。文化財調査範囲がT.P.+2.88mまでであったため、埋土の上層部しか図化することができなかったが、深さは1.2m以上を測ることを確認している。埋土は上層より灰色(N6/6)中粒砂(第12図第④層)、オリーブ黄色(5Y6/4)+灰色(10Y5/1)砂(同図第⑥層)の2層を確認している。上面のレベルはT.P.+3.2mを測る。遺物は出土しなかった。

3) 出土遺物(第14図)

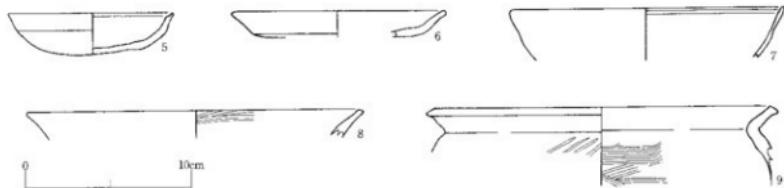
包含層(第1・2層)出土土器(5)

No.2調査区で出土した遺物は微量であった。包含層から遺物が出土したのは第1b層・第2層のみで、第1b層は土師器皿1点(5)、第2層は土師器細片2点を数えるに過ぎない。

5の土師器皿は、口径9.7cm、器高2.5cmを測る。やや丸みを帯びた底部から緩やかに外反する口縁部を持つ。口縁端部は丸く、内面に沈線を施す。口縁部内外面ともにヨコナデ調整、底部内外面ともにナデ調整する。色調は浅黄橙色(7.5YR8/4)を呈する。平安時代後期。

第6層上面流路1出土土器(6~8)

第6層上面の流路1の埋土中からは土師器が数点出土した。径約1~3cmの細片が多く、器面・端部ともにローリングを受け、丸みを帯びている。図化できたのは6~8の3点である。平安時代後期~末にかけての遺物が多いが(6・7)、それよりもやや古い様相を示す土器も含んでいる(8)。



第14図 No.2調査区出土遺物実測図

6の土師器皿は復元口径12.6cm、残存高1.6cmを測る。口縁部は広く平らな底部から緩やかに外反し、口縁端部は内端面を成す。口縁部内外面ともヨコナデ調整、底部内外面ともナデ調整する。色調はにぶい赤褐色(5YR5/4) + 黄灰色(2.5Y5/1)を呈する。平安時代後期。

7の土師器鉢は復元口径16.6cm、残存高3.1cmを測る。口縁部は内彎気味に立ち上がり、口縁端部は丸く、内面に沈線を施す。口縁部内外面ともヨコナデ調整する。色調はにぶい黄橙色(10YR7/4)を呈する。平安時代後期。

8の土師器甕は復元口径19.6cm、残存高1.8cmを測る。口縁部は外反し、口縁端部は外端面を成す。口縁部外面ヨコナデ調整、内面ヨコナデ後横方向のハケメ調整する。色調は外面にぶい黄橙色(10YR6/4)、内面にぶい黄橙色(10YR6/4) + 暗灰色(10YR5/1)を呈する。平安時代。

第8層上面流路2出土土器(9)

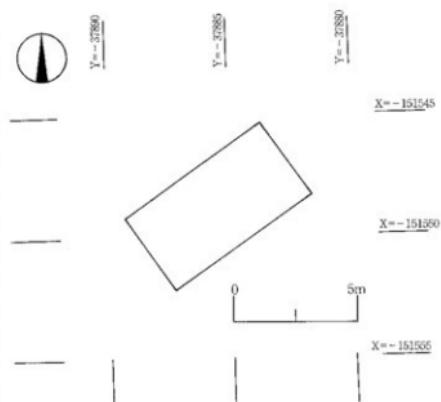
第8層上面の流路2の埋土中より弥生土器が4点出土した。同化できたのは9の1点のみであった。9の弥生土器甕は、復元口径20.4cm、残存高4.8cmを測る。口縁部はくの字形に外反し、口縁端部は外端面を成す。体部の張りは大きい。口縁部内外面ともヨコナデ調整、体部外面タタキ調整、体部内面ハケメ調整する。色調は外面黒褐色(2.5Y3/1)、内面灰黄色(2.5Y7/2)を呈する。畿内第V様式。生駒西麓産。

4. No.3調査区の概要

1) 調査区の規模と基本層序（第15・16図）

調査区の規模は東西6.8m、南北3.6m、調査面積は24.5m²である（第15図）。調査区周辺の現地表面は標高約7.8mを測る。

第0層の盛土層は、No.2調査区と同じく試掘調査時に重機で掘削した。当調査区は特に薬注による被害が多大で、適時それを除去しながら土層断面の確認を行い、面を下げていくことにした。造構面は第2層上面、第3層上面の2面で確認できた。当調査区より遺物は1点も出土しなかった。第1層から調査区北・西壁にセクションを設定し、土層断面の観察を行った（第16図）。調査地点の土層は7層に大別することができた。各層の概要は以下の通りである。



第15図 No.3調査区位置図

- 第0層 近現代盛土層。現地表面レベルはT.P.+7.80mを測り、層厚約1.9mである。
- 第1層 暗オリーブ灰色粘土層。旧耕土層。調査区南西には下部に青灰色(5BG5/1)微粒砂(第1 b層)が5cm堆積している。第0層の影響により、上部は削平されている可能性が高いが、現状での上面のレベルは調査区南西でT.P.+5.9m、北東でT.P.+5.8mを測り、層厚は約0.1~0.4mであった。
- 第2層 灰白色(2.5Y7/1)中粒砂層(北側)～にぶい黄色(2.5Y6/4)粗粒砂層(南側)。上面は遺構面となり、流路を検出した。北側では第3層のブロック土(第2 d・2 h層)や微粒砂～シルトの間層(第2 e・2 f・2 g層)が見られる。南側では最下部に鉄分が沈着していた。上面のレベルは調査区西側でT.P.+5.7m、東側でT.P.+5.3mで傾斜しており、層厚は約0.3mである。
- 第3層 暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)粘土層。旧水田土層。上面は遺構面となり、足跡群を検出した。調査区北側には暗緑灰色(10G3/1)粘土層が部分的に堆積している(第3 b層)。上面のレベルは調査区西側でT.P.+5.4m、東側でT.P.+5.2mを測り、層厚は約0.4~0.6mである。
- 第4層 暗灰色(N3/)粘土層。旧水田土層。層中に有機物が少量混入している。上面のレベルは調査区南西で最も高くT.P.+4.9m、南東でT.P.+4.6mで、比高差は約0.3mを測る。層厚は約0.3mである。
- 第5層 暗緑灰色粘土～シルト層。旧水田土層。第5層は3層に細別できる。上層から第5 a層が暗緑灰色(10GY4/1)粘土層で暗灰色(N3/)粘土がブロック状に混入、第5 b層が暗緑灰色(7.5GY4/1)シルト質粘土層、第5 c層が暗緑灰色(10GY4/1)粘質シルト層である。上層から下層にいくにつれ、粘土質からシルト質に変わる。上面のレベルは調査区南西でT.P.+4.6mで、調査区北東方に向かって緩やかに傾斜しT.P.+4.4mとなる。層厚は約0.5~0.7mである。
- 第6層 オリーブ色(5Y5/4) + オリーブ灰色(2.5GY5/1)砂層。旧長瀬川の河流による堆積層と思われる。上面のレベルは調査区東側でT.P.+4.0m、西側でT.P.+3.8mで、比高差は約0.2mを測る。層厚は1.1m以上である。

2) 遺構

第2層上面遺構(第17図上)

流路 調査区中央～南側で検出した東西方向の流路である。北肩しか検出できず、形状・規模ともに詳細は不明である。検出長3.0m、検出幅4.7m、深さ0.3mを測る。埋土は2層に分層でき、上層は灰白色(2.5Y7/1)中粒砂(第16図第①層)、下層はにぶい黄色(2.5Y6/4)粗粒砂(同図第②層)である。遺物は出土しなかった。

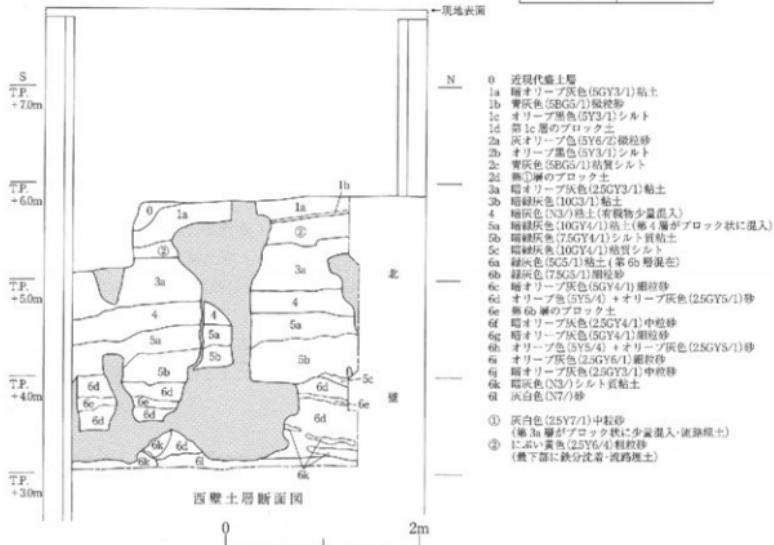
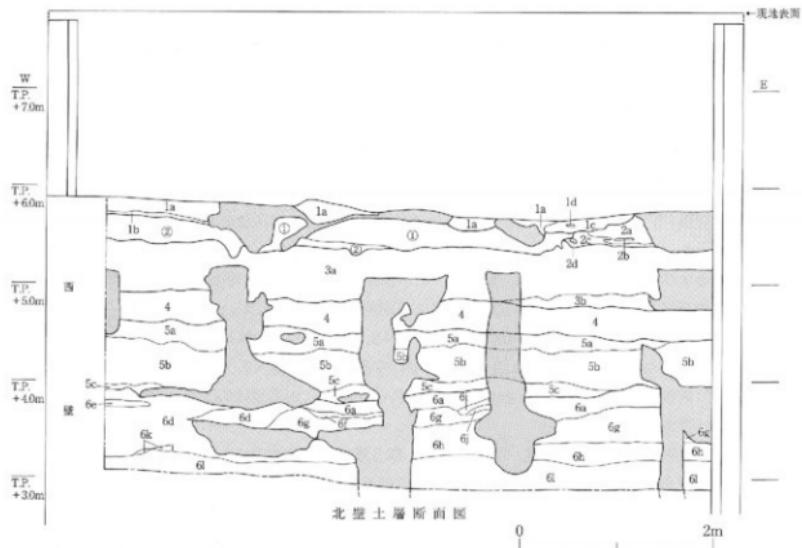
第2層が東西方向に延びていることから、同層は畦畔の可能性もある。しかし狹隘な調査地であったため、断定することができなかった。どちらにせよ、当遺構が河川による洪水の痕跡であることは定かである。

第3層上面遺構(第17図下)

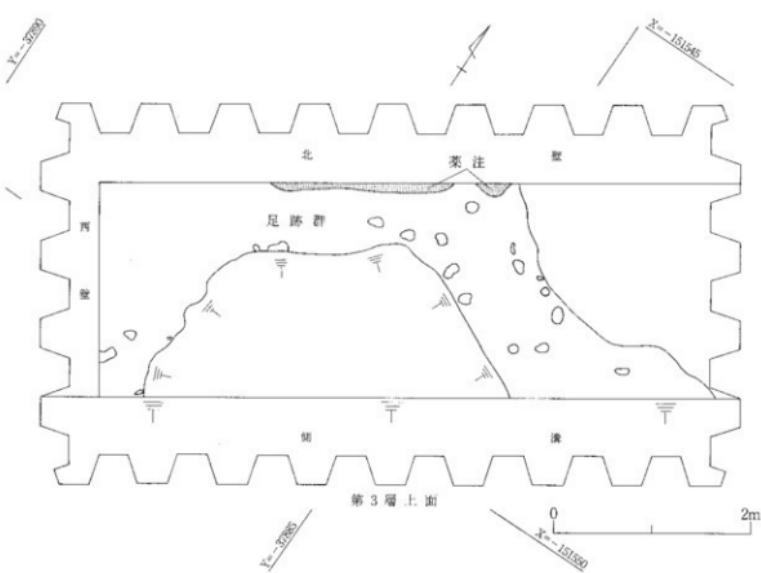
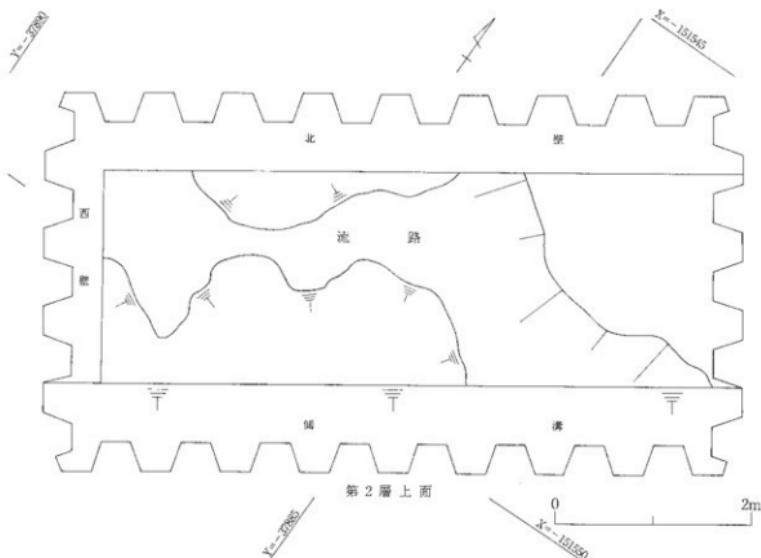
足跡群 流路の埋土を除去すると、底面にて足跡群を検出した。No.2調査区第6層上面で検出した足跡群よりも密度は希薄である。足跡の種類はNo.2調査区と同様、人間を主体とし、ウシの足跡も確認できた。規模は、人間は長さ約30cm、ウシは約10cmを測り、深さは約5cm程度である。

3) 出土遺物

No.3調査区より遺物は出土しなかった。



第16図 No.3 調査区北・西壁土層断面図



第17図 No.3調査区第2・3層上面遺構面平面図

IV おわりに

今回の調査区は狭隘かつ遺構・遺物ともに希薄な地帯であり、各層の時期決定が困難であった。近畿道に伴う調査成果も踏まえながら、今回の調査の評価をしてみたい。

まず、今回調査した調査区では3ヶ所とも足跡群を検出している。いずれも旧長瀬川による洪水により堆積した砂層の下層にて検出した。飛鳥時代以降、当位置は水田域として利用されていたが、度重なる洪水の被害を受けており、その一端を表した遺構であるといえよう。

No.1調査区では、第3層上面にて落込み、ピット、溝を検出している。これらの遺構は、共伴遺物（布留式土器）により古墳時代前期であると考えられる。調査地東方約200mで集落域の想定がなされており、それに関する遺構の可能性もある。

弥生時代の包含層について、近畿道に伴う調査では一部確認されているが、本調査では確認できなかった。No.2調査区第8層上面で検出した流路2に数点混入していたぐらいであった。

縄文時代は、数条の自然河川・流路が佐堂・久宝寺北遺跡の調査にて確認されている。このうち最大規模を測る流路が久宝寺北遺跡H・A地区で検出されたNR1001である。最大幅約100m、深さ約2.5mを測る。遺物は河床付近で滋賀里IV～Vを主体とした遺物が出土している。今回No.1・2調査区で検出した自然河川は、調査区の位置関係で見るとNR1001の一部であることは間違いないだろう。

今回の調査により、本遺跡で集落が営まれた古墳時代前期の西方への活動の広がりを確認できた。調査区周辺では、古墳時代前期と古代～中世にかけて人の活動の痕跡が見られる。しかし、多時期にわたって大規模な河川・流路による浸食や洪水の痕跡があり、本調査区付近で継続した生活を営むことは、相当不向きな自然環境下であったに違いない。

註1

- ・大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財センター1984『佐堂(その1)』
- ・大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財センター1985『佐堂(その2) - II - 他』

註2 八尾市教育委員会による立会・試掘・発掘調査は以下の概要にて報告されている。

- ・八尾市教育委員会1979「4.佐堂遺跡 日産自動車工場予定地発掘調査報告」『昭和51・52年度埋蔵文化財発掘調査年報』
- 八尾市文化財調査報告4 23～32頁
- ・八尾市教育委員会1981「5.佐堂遺跡 五色建設株式会社、分譲住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査」『昭和53・54年度埋蔵文化財発掘調査年報』八尾市文化財調査報告7 33～39頁
- ・八尾市教育委員会1984「八尾市内遺跡昭和58年度発掘調査報告書－高安古墳群の調査他－」
- 八尾市文化財調査報告10昭和58年度国庫補助事業 27頁・調査日：昭和58年12月7日
- ・八尾市教育委員会1985「八尾市内遺跡昭和59年度発掘調査報告書」八尾市文化財調査報告11昭和59年度国庫補助事業 60頁・調査日：昭和59年9月5日 61頁・調査日：昭和59年10月4日 62頁・調査日：昭和59年12月6日・昭和60年1月16日
- ・八尾市教育委員会1986「八尾市内遺跡昭和60年度発掘調査報告書」八尾市文化財調査報告12昭和60年度国庫補助事業 113頁・調査日：昭和60年10月14日 115頁・調査日：昭和61年1月20日
- ・八尾市教育委員会1987「八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書II」八尾市文化財調査報告15 35頁・調査日：昭和61年12月2日
- ・八尾市教育委員会1988「八尾市内遺跡昭和62年度発掘調査報告書I」八尾市文化財調査報告17昭和62年度国庫補助事業 91頁・調査日：昭和62年5月28日 92頁・調査日：昭和62年7月7日 94頁・調査日：昭和62年12月15日

- ・八尾市教育委員会1989「八尾市内遺跡昭和63年度発掘調査報告書Ⅰ」八尾市文化財調査報告19昭和63年度国庫補助事業 75頁・
調査日：昭和63年11月21日
 - ・八尾市教育委員会1989「八尾市内遺跡昭和63年度発掘調査報告書Ⅱ」八尾市文化財調査報告20昭和63年度公共事業
30頁・調査日：昭和63年9月7日
 - ・八尾市教育委員会1990「八尾市内遺跡平成元年度発掘調査報告書Ⅰ」八尾市文化財調査報告20平成元年度国庫補助事業
78頁・調査日：平成2年2月15日
 - ・八尾市教育委員会1990「八尾市内遺跡平成元年度発掘調査報告書Ⅱ」八尾市文化財調査報告21平成元年度公共事業
33頁・調査日：平成元年5月13日
 - ・八尾市教育委員会1991「八尾市内遺跡平成2年度発掘調査報告書Ⅰ」八尾市文化財調査報告23
33頁・調査日：平成2年7月16・17日
 - ・八尾市教育委員会1993「八尾市内遺跡平成4年度発掘調査報告書Ⅰ」八尾市文化財調査報告27平成4年度国庫補助事業
78頁・調査日：平成4年4月3日
 - ・八尾市教育委員会1994「八尾市内遺跡平成5年度発掘調査報告書Ⅰ」八尾市文化財調査報告29平成5年度国庫補助事業
79頁・調査日：平成5年12月20日
 - ・八尾市教育委員会1995「八尾市内遺跡平成6年度発掘調査報告書Ⅰ」八尾市文化財調査報告32平成6年度公共事業
27頁・調査日：平成6年10月5日
 - ・吉田野乃1996「5.佐堂遺跡(93-534)の調査」『八尾市内遺跡平成7年度発掘調査報告Ⅰ』八尾市文化財調査報告33
平成7年度国庫補助事業 八尾市教育委員会 27・28頁
 - ・八尾市教育委員会1998「八尾市内遺跡平成9年度発掘調査報告書Ⅰ」八尾市文化財調査報告38平成9年度国庫補助事業
101頁・調査日：平成9年11月12日
 - ・八尾市教育委員会1999「八尾市内遺跡平成9年度発掘調査報告書Ⅱ」八尾市文化財調査報告40平成10年度国庫補助事業
81頁・調査日：平成10年2月6日
 - ・八尾市教育委員会1999「八尾市内遺跡平成10年度発掘調査報告書Ⅱ」八尾市文化財調査報告41平成10年度公共事業 30頁・調査
日：平成10年11月18日
 - ・西村公助2004「21 佐堂遺跡(2003-291)の調査」『八尾市内遺跡平成15年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告49 平成15
年度国庫補助事業 八尾市教育委員会 19頁
 - ・坪田真一2006「13.佐堂遺跡」『八尾市内遺跡平成17年度発掘調査報告書』八尾市文化財調査報告53平成17年度国庫補助事業 八
尾市教育委員会 25頁
- 註 3
- ・原田昌則2000「B 佐堂遺跡第1次調査(SD095-1)」「財团法人八尾市文化財調査研究会報告66」(財)八尾市文化財調査研究会
41~58頁
- 註 4
- ・坂田育功1987「佐堂遺跡」『河内平野遺跡群の動態』 - プロローグ編 - 大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財センター
第Ⅱ章第3節第9項佐堂遺跡 104頁 II - 図38参照。

参考文献

- ・大阪府教育委員会・(財)大阪府文化財センター1987「久宝寺北(その1~3)」

報告書抄録

ふりがな	さどういせきだい1じはつくつちょうさほうこく					
書名	佐堂遺跡第1次発掘調査報告					
副書名						
卷次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編著者名	市田英介・庵ノ前智博					
編集機関	東大阪市教育委員会					
所在地	〒577-8521 大阪府東大阪市荒本北50番地の4 Tel06-4309-3283					
発行機関	東大阪市教育委員会					
発行年月日	2007年3月31日					
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	市町村 コード	遺跡番号	調査期間	調査面積	調査原因
さとういせき 佐堂遺跡	おおさか 大阪府 ひがし大阪市 かなまち 金岡4丁目 おれはすけん 大蓮東4丁目	27227	145	平成17年10 月13日～11 月7日 平成18年4 月20日～5 月19日	101.4m ²	寝屋川流 域下水道 増補幹線 新設事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
河川 水田 田畠	弥生時代 古墳時代 平安時代～中世	ピット・溝・落 ち込み・足跡・ 流路・自然河川		弥生土器 布留式土器 土師器	弥生時代後期以前 自然河川 弥生時代後期流路 古墳時代遺構	

図 版



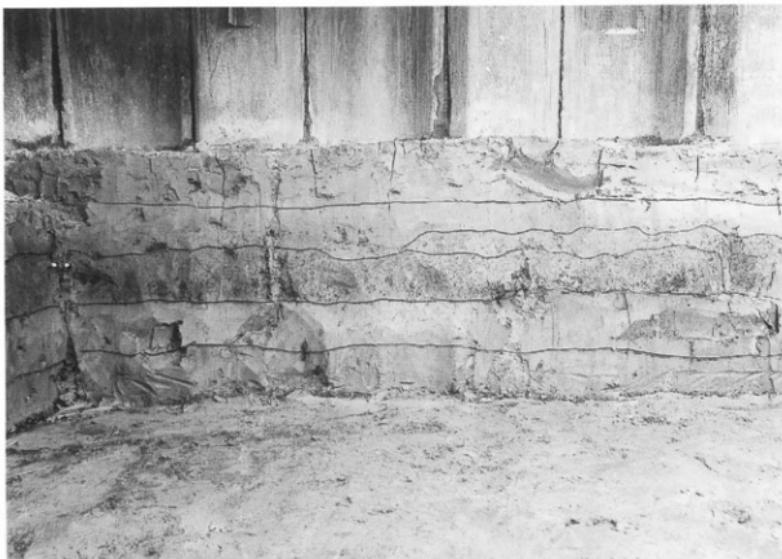
1. 調査地遠景 (No.2・3調査区・東から)



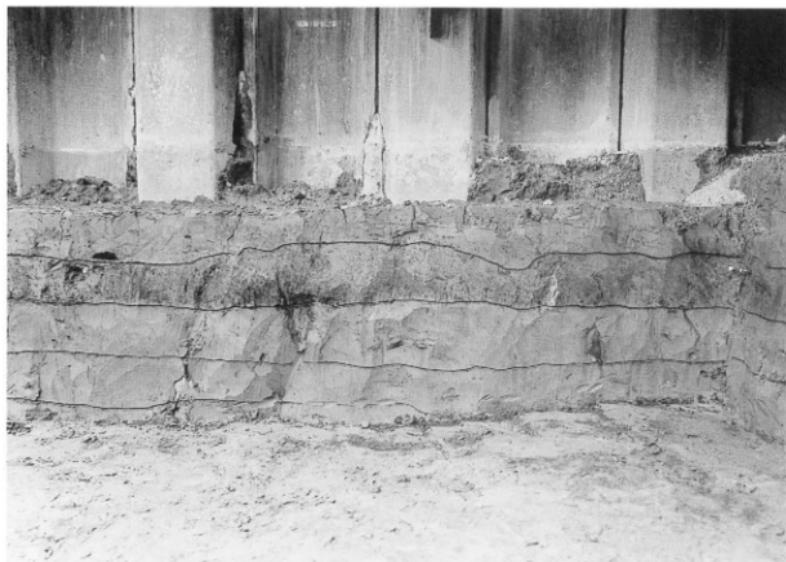
2. 同拡大



1. No.1 調査区西壁土層断面（北半・第1層～第4層）



2. No.1 調査区西壁土層断面（南半・第1層～第4層）



1. No.1 調査区南壁土層断面（西半・第2層～第4層）



2. No.1 調査区南壁土層断面（東半・第2層～第4層）



1. No.1 調査区南壁土層断面（西半・第4層～第8層、自然河川上層部）



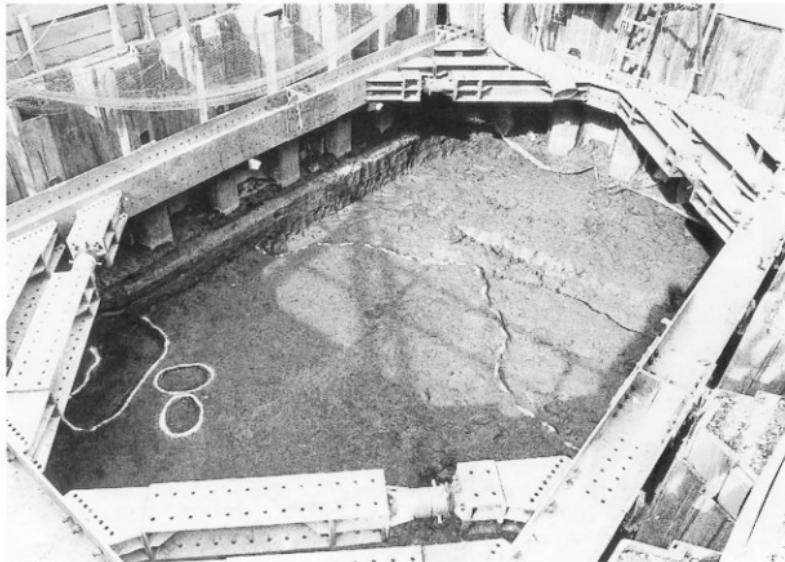
2. No.1 調査区南壁土層断面（東半・第4層～第8層、自然河川上層部）



1. No.1 調査区南壁土層断面（第6層～第18層、自然河川下層部）



2. No.1 調査区南西コーナー土層断面（自然河川下層部）



1. No. 1 調査区第3層上面遺構面検出状況（南東から）



2. No. 1 調査区第3層上面遺構面検出状況（北から）



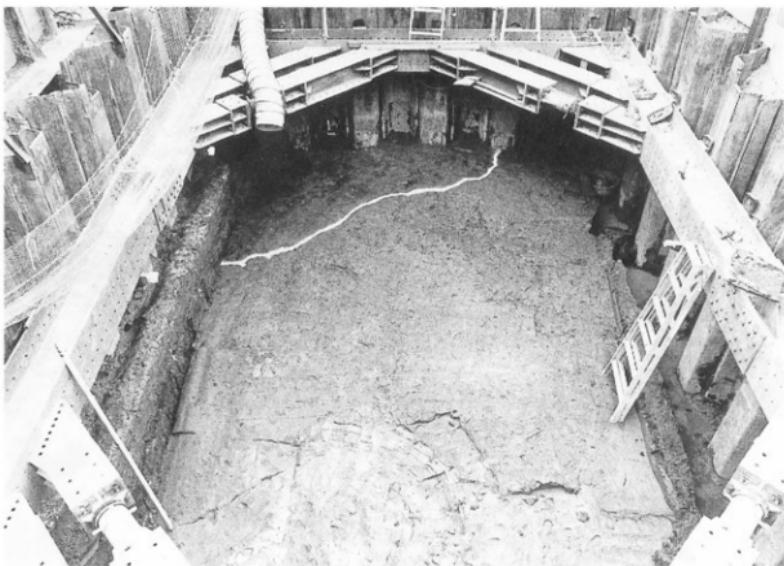
1. №1 調査区第3層上面遺構ピット1断面（北から）



2. №1 調査区第3層上面遺構ピット2断面（東から）



1. No. 1 調査区第3層上面遺構落ち込み内遺物出土状況（東から）



2. No. 1 調査区第3c層上面遺構面検出状況（南から）



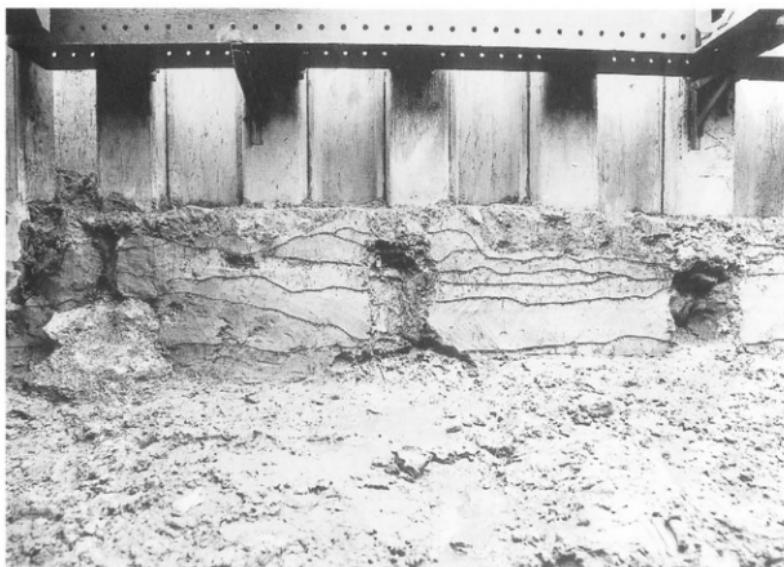
1. No. 1 調査区第5層上面遺構面検出状況（北から）



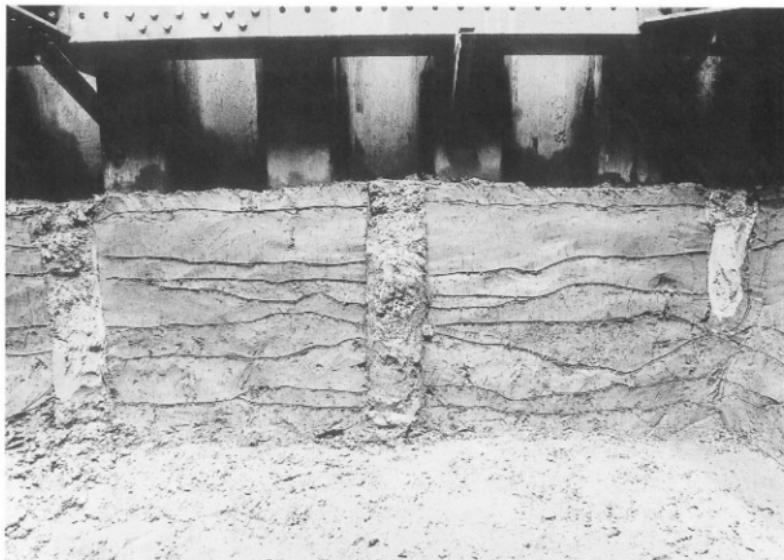
2. No. 1 調査区第15層上面自然流路検出状況（北から）



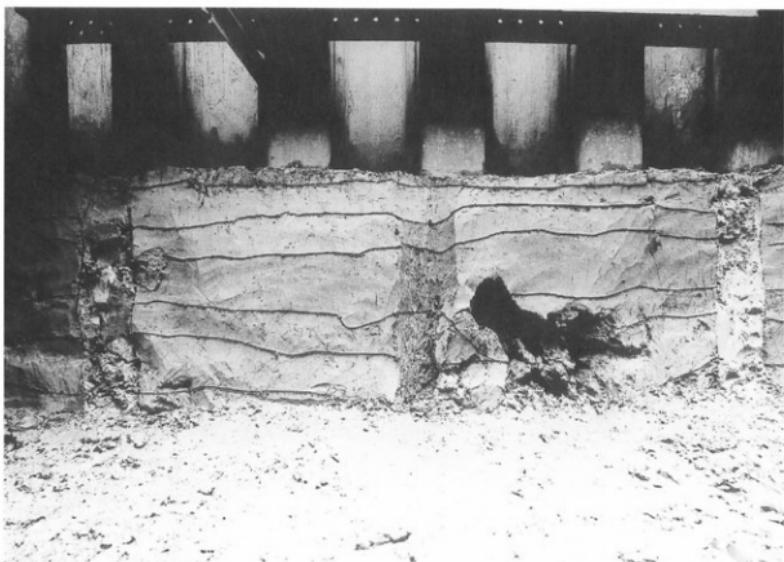
1. No. 2 調査区西壁土層断面（北半・第0層～第6a層上面）



2. No. 2 調査区西壁土層断面（南半・第0層～第6a層上面）



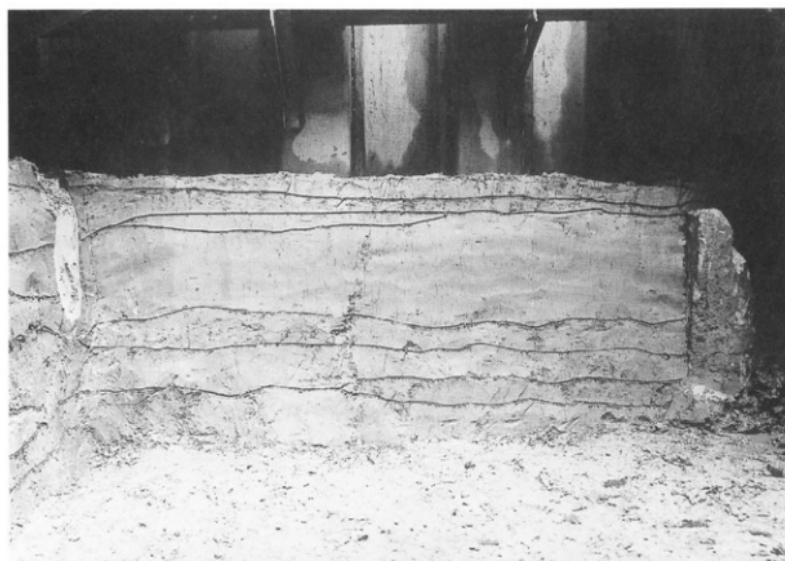
1. No.2 調査区西壁土層断面（北半・第6 e層～第9 b層）



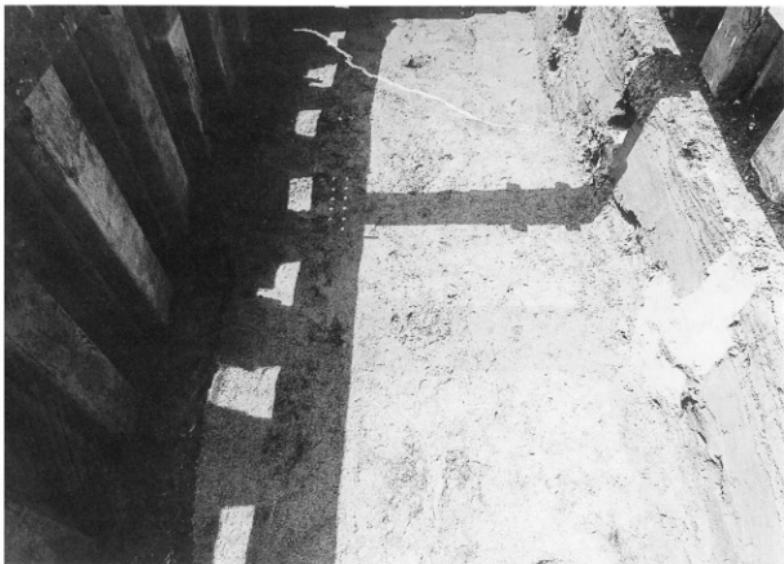
2. No.2 調査区西壁土層断面（南半・第6 e層～第9 b層）



1. Na2 調査区北壁土層断面（第 1 a 層～第 6 a 層上面）



2. Na2 調査区北壁土層断面（第 6 d 層～第 9 b 層）



1. No.2 調査区第6層上面遺構流路1検出状況（北東から）



2. No.2 調査区第6層上面遺構流路1検出状況（南西から）



1. №2 調査区第6層上面遺構足跡群検出状況（北東から）



2. 同拡大



1. No.3 調査区北壁土層断面（東半・第1a層～第3a層）



2. No.3 調査区北壁土層断面（西半・第1a層～第3a層）



1. No.3 調査区北壁土層断面（東半・第3a層～第5b層）



2. No.3 調査区北壁土層断面（西半・第3a層～第5b層）



1. No.3 調査区北壁土層断面（東半・第5b層～第61層上面）



2. No.3 調査区北壁土層断面（西半・第5b層～第61層上面）



1. No.3 調査区西壁土層断面（第0層～第3a層）



2. No.3 調査区西壁土層断面（第3a層～第5b層）



1. No.3 調査区西壁土層断面（第5 b 層～第6 1 層上面）



2. No.3 調査区西壁上層断面（第6 1 層）



1. No.3 調査区第3層上面遺構
足跡群検出状況（東から）



2. No.3 調査区第6層上面
検出状況（東から）



1'



2



1



3



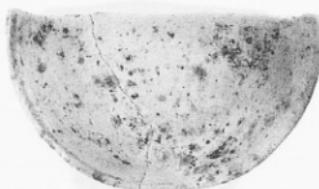
1"



4

No.1 調査区出土遺物

圖版
22
遺物



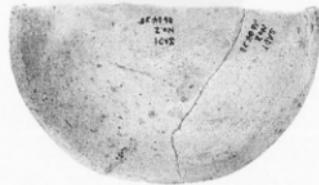
5'



6



5



5"



7



9



8

Na 2 考查區出土遺物

佐堂遺跡第1次発掘調査報告

平成19年3月31日

発行所 東大阪市教育委員会
印刷所 (株)近畿印刷センター

